ヤスクニ通信　No.246　2020 年 9 月 18 日
発行　靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」）　代表・星出卓也（Tel/Fax042-458-0251）
事務局　西東京市柳沢 2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付　HP　http://yasukuninotsudoi.christian.jp/
例会　毎月第3金曜日　7:00～9:00pm（休日の場合第 4 金曜日）
会場　たんぽぽ舎 TEL 03-3238-9035　FAX 03-3238-0797　（注）現在、同場所建替で移転予定。

ヤスクニ・レポ　246

半世紀以上にわたりつどいを導いた西川代表

小川正明（日本基督教団小金教会会員）

昔、従軍経験のある恩師が言っていたのを思い出した。半世紀以上前ではあるが、「今の靖国神社は戦前と違って平和的で良い神社になった」と言うものであった。敗戦により存続の危機に陥った靖国神社は変わらざるを得なかったのであるが、それから四半世紀を経て、一定の国民の支持を獲得したような時代となった。すると、今度は勢いを盛り返し、国家護持は挫折したけれども、英霊にこたえる運動やＡ級戦犯の合祀として実現している。

ヤスクニで会おうと言うことは、死んで護国の神になって来るということであり、それを強要することでもあった。自らヤスクニの神になろうと決意した人がいるだろうか。あの時代、それ以外の道があったろうか。そう言って出征した人たちも送り出した人たちも同罪である。

その様に教育されたとも言えるが、ここでも靖国神社の果たした役割は重要である。現在でも遊就館がその役割を継続している。次は集団参拝の実現ではないか。教師に引率されて児童・生徒が靖国神社に連れて来られる日を許してはならない。

西川さんは、キリスト者遺族の会の代表としても活躍された。戦場で斃れた人は犠牲者と見られた時代にアジアでの戦いにおいて加害者であったとの視点を持っていた。

遺族の悲しみや、苦労を思うと、お国のためと言われて犠牲となった事に怒りを持つことは当然であるが、冷静に父や兄たちが戦地で行ったことや、その結果犠牲となった現地の人たちに思いを寄せるということは戦没者遺族にとってさらに悲しいことではないかと察せられます。

靖国神社は、これらの行為をすべて偉業として称え、顕彰することによって遺族の怒りや不満を解消しようとしている。こんなことで騙されてはならない。靖国神社は加害を認めない、これを認めたら祭神を「英霊」とも言えず、顕彰することも出来なくなるからである。

靖国神社にＡ級戦犯が昭和殉難者として合祀されたことが明らかになって以来、歴代の天皇の靖国参拝は途絶えている。裕仁天皇の側近のメモ（富田メモ、卜部日記）から少なくともそこで合祀された中の二人には良い感情は持っていなかったことが明らかになった。この二人ではないが、太平洋戦争開戦時の内閣総理大臣、陸軍大臣を兼務していた東条英機について東京裁判の記録から見る。

1947 年 12 月 31 日、木戸被告担当のローガン弁護人が東条にこう聞いた。「天皇の平和ご希望に反して、木戸がなにか行動したり進言した事例を、ひとつでも覚えていますか？」

東条はきっぱりと答えた。「そういう事例は私の知るかぎりない。のみならず、日本国の臣民が、陛下のご意思に反して、あれこれすることはあり得ぬ。いわんや日本の高官においてをや」

天皇が平和を願っているのに、それに逆らうような言動をする日本人は一人もいない。と明言したのである。これは、既に天皇の免責を決めていたキーナン検事には衝撃であった。どうしても、東条の証言を撤回させなければならない。それで東条への説得工作が行われた。

1948 年 1 月 6 日、キーナン：あなたは、日本臣民たるものは何人たりとも、天皇の命令に従わないというようなことを考える者はいないと言いました。

東条：それは私の国民としての感情を申し上げておったのです。責任問題とは別です。

キーナン：しかしあなたは、実際米国、英国およびオランダに対して戦争をしたのではありませんか。

東条：わたしの内閣において戦争を決意しました。

キーナン：それは、裕仁天皇の意思ですか。

東条：意思と反しましたかしれませんが、とにかく私の進言――統帥部その他責任者の進言によって、しぶしぶご同意になったというのが事実でしょう。しかして平和のご愛好の御精神は、最後の一瞬にいたるまで陛下はご希望をもっておられました。その御意思の明確になっておりますのは、昭和十六年十二月八日の御詔勅のなかに、明確にその文句が付け加えられております。しかもそれは陛下のご希望によって、政府の責任において入れた言葉です。それはまことにやむを得ざるものなり、朕の意思にあらざるなりというふうな意味のお言葉があります。

これはキーナン検事にとっても、十分満足の出来る証言であった。当然ながら、開戦の詔勅の中のどこに天皇が平和を希求されたと書いてあるのかなどとは問わない道理である。

そこでこの詔書の内容を見る。主文は、私はここに米国及び英国に対して戦を宣する。私の陸海軍将兵は全力を奮って交戦に従事し、私の役人は職務に励んで奉行し、私の国民は各々その本分を尽くし、１億の心をひとつにして国家の総力を挙げ、征戦の目的を達成するため誤りのないようにせよ。

そして、「平和」という単語は６か所にある。順番に見ると、１.東アジアの安定を確保し、世界の平和に寄与することを願っている。２.中華民国政府は帝国の真意を解せず事を構えて東アジアの平和を攪乱している。３.重慶に残存する政権は米英の支援を当てにして平和の美名に匿れて東洋制覇の野望を逞しくしている。４.さらに帝国の平和的通商を妨害している。５.私は政府をして事態を平和裡に回復しようとしたが・・・。６.皇祖皇宗の神霊上に在って私は東アジア永遠の平和を確立して、帝国の光栄を保全することを期待している。まとめると、平和を乱すのは蔣介石政権である、私は八紘一宇を広め、世界の平和を願う。ということであろう。

西川さんはまた、日本軍による重慶の都市爆撃については東京大空襲や広島、長崎の無差別殺戮の原点ととらえ、何度も現地を訪れ、「重慶大爆撃の被害者と連帯する会・東京」の事務局長をされた。

２０２０年８月２１日例会奨励「人のことより、神のことを思え」
マタイの福音書１６章１３～２３節　山川暁先生

イエスさまは１２弟子を連れてユダヤの辺境の地、ピリポ・カイザリヤに行きます。そこでイエスさまは弟子たちに問いかけます。「あなたがたはわたしを誰だと言うのか」、と。ペテロが応じます。「あなたは，生ける神の子、キリストです」、と。キリストとはユダヤ人が待ち望んでいるメシアの事です。

辺境の地で、イエスさまが１２弟子に重要な問いかけをされたことは、イエスさまがユダヤ人から疎外され、理解されていなかったことを象徴しています。

イエスさまはペテロに言います。「あなたにこのことを言わしめたのは、血肉ではなく、天におられるわたしの父である」、と。そして、言います。「わたしは岩の上に教会を建てよう」と。イエスさまは神殿でもなく、会堂でもなく、教会（エクレシア）を建てると言うのです。神殿こそが重要であると考えている弟子たちには、イエスさまのことばは理解できませんでした。特に「教会」（エクレシア）は弟子たちには馴染みのない言葉でした。

イエスさまはさらに重要なことを語ります。「わたしはエルサレムで、長老、祭司長、律法学者たちから苦しみを受け、殺され、三日目によみがえる」、と。ペテロは言います。「とんでもないことです。そんなことがあるはずはありません」、と。弟子たちにとって、イエスさまが殺されることなど、あってはならいことでした。しかし、イエスさまはそのペテロを厳しく諌めます。「サタンよ、去れ。あなたは神のことを思わず、人のことを思っている」、と。

コロナ禍に置かれているなか、私たちクリスチャンも、神のことを思わずに、身に降りかかってくるコロナウイルスに対する恐れのみに目を奪われ、思考を停止させられているかも知れません。

しかし、イエスさまは弟子たちに言います。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨てて、自分の十字架を負ってわたしに従ってきなさい」、と。先月２３日に、９２歳で生涯を閉じた西川重則長老です。文字通り、西川さんはご自分を捨てて、天皇制と憲法問題、そして靖国神社問題という十字架を背負って、イエスさまに従い通した方でした。この西川さんに習いたいと思います。